

令和3年度 古川西中学校全体の様子と学校評価アンケート結果から見てくること

新型コロナによる影響を受けながらも、多くの生徒が楽しく充実した生活を送れていると回答している。これは、友人関係の良好さや教師と生徒の親和性の高い関わりが基盤になっていると考えられる。今後も、生徒の思いや主体性を尊重した学校行事の工夫改善や何気ない日常の時間における温かな関係づくりを大切にしていきたい。また、学校生活を楽しいと感じていない生徒がいることをしっかり認識し寄り添いながら、自己有用感の育成に努めたい。

生徒結果（設問1）
生徒結果（設問2・3）

生徒たちが成長していく上で必ず直面する対人関係の悩みやトラブルはいくつかあったが、学校全体で組織として迅速に誠意を持って対応している。今年度学校が認知したいじめ件数は6件（6件の内3件は、令和2年度からの継続）であり、ご家庭と情報を共有しながら対応しており改善に向かっているケースが多い。今後も様々な課題をしっかり受け止め、安心安全、居心地のよい学校を目指し学校一丸となって最善を尽くしていきたい。

また、不登校生徒にも家庭と連絡を密にしなが、学年スタッフや担任、PTAや外部機関と連携しながら対応することにより、少しずつ好ましい変容が見られるようになった。今年度は特にオンラインによる朝の会を行う等、一人一台端末（タブレット）を活用した取組も積極的に進められ成果が上がっている。また、ふらっとルームとの連携もよりスムーズになっており生徒の行動変容が見られる。

本校では『凡事徹底～時を守り、場を清め、礼を正す～』を生徒指導（生き方指導）の中核に据えており、その具現化を目指す取組にも大きな成果が見られ始めている。

生徒結果（設問7～10）

無言清掃を通して心を磨くという取組は定着しつつあり、中学校区の小学校を先導する新しい校風になりつつある。2年目となり新たな課題も出てきているが今後も工夫して取り組んでいきたい。

校内における教師と生徒、生徒どうしの挨拶は日常的に親しく交わされている。来校者や保護者など誰に対しても自然に挨拶ができる生徒の育成をおはようバード活動と連携して目指すことがこれからの課題になりそうである。

保護者結果（設問7）

本校生徒の学力水準は、全体的に高いとは言えないが、生徒は意欲的であり、しっかり学ぼうとしているため授業の雰囲気が良い。教員も「分かる授業」「考えさせる授業」を工夫して授業改善に取り組んでいる。特に今年度はAI型学習教材（キュビナ）を導入しより個に応じた学習を進められるようにしている。キュビナの活用は来年度以降も継続していきたい。

授業の内容理解に対する設問に対して生徒と保護者の結果に大きな差があったため、この結果について検証し、改善を進めている。

保護者結果（設問2）
生徒結果（設問4）

もちろん、理解度や定着度には個人差があるが、本来もっと伸ばせる部分を阻害していると考えられる課題は、やはり家庭学習の実情である。学校から出された課題を提出しない生徒の固定化とそれに対する指導や支援、家庭学習の質（内容）を充実させるための指導、家庭学習と授業を上手につなぐ方策など、学校として取り組むべき課題は大きい。改善の大きな視点として、キュビナの一層の活用を推進していきたい。

生徒結果（設問5）
保護者結果（設問3）

家庭学習の定着は、家庭生活の在り方にも影響を受けていると感じられる。学校と家庭が課題を共有し、解決を目指す必要がある。2月に行ったメディア利用に関するメディアチャレンジコントロールを継続し、家庭と協力しながらメディアの使い方をコントロールする力の育成を図りたい。

保護者結果（設問6）

次年度からは、令和5年度の義務教育学校新設に向けた動きがいよいよ本格的に加速していくことになる。生徒の良さ・教職員の強み・学校の良さ・地域の強みに向ける目を大切にしながら、中学校区にしっかりと根を張った、信頼と安心と誇りのあふれる古川西中学校の新たな創造を目指していきたい。